

平成 24 年度 秋期
IT ストラテジスト試験
午後Ⅱ 問題

試験時間

14:30 ～ 16:30 (2 時間)

注意事項

1. 試験開始及び終了は、監督員の時計が基準です。監督員の指示に従ってください。
2. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いて中を見てはいけません。
3. 答案用紙への受験番号などの記入は、試験開始の合図があってから始めてください。
4. 問題は、次の表に従って解答してください。

問題番号	問 1 ～ 問 3
選択方法	1 問選択

5. 答案用紙の記入に当たっては、次の指示に従ってください。
 - (1) B 又は HB の黒鉛筆又はシャープペンシルを使用してください。
 - (2) 受験番号欄に受験番号を、生年月日欄に受験票の生年月日を記入してください。
正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。生年月日欄については、受験票の生年月日を訂正した場合でも、訂正前の生年月日を記入してください。
 - (3) 選択した問題については、次の例に従って、選択欄の問題番号を○印で囲んでください。○印がない場合は、採点されません。2 問以上○印で囲んだ場合は、はじめの 1 問について採点します。

〔問 2 を選択した場合の例〕

選択欄	問 1	問 2	問 3
	1 問選択		

注意事項は問題冊子の裏表紙に続きます。
こちら側から裏返して、必ず読んでください。

“論述の対象とする構想，計画，システムなどの概要”の記入方法（問１又は問２を選択した場合に記入）

論述の対象とする構想，計画，システムなどの概要と，その構想，計画策定，システム開発などに，あなたがどのような立場・役割に関わったかについて記入してください。

①～⑮の質問項目に従って，記入項目の中から該当する番号又は記号を○印で囲むとともに，（ ）内にも必要な事項を記入してください。複数ある場合は，該当するものを全て○印で囲んでください。

“論述の対象とする製品又はシステムの概要”の記入方法（問３を選択した場合に記入）

論述の対象とする製品又はシステムの概要と，その製品又はシステム開発に，あなたがどのような立場・役割に関わったかについて記入してください。

①～⑭の質問項目に従って，記入項目の中から該当する番号を○印で囲むとともに，（ ）内にも必要な事項を記入してください。複数ある場合は，該当するものを全て○印で囲んでください。

問1 ITを活用した事業戦略の策定について

企業は市場における競争力を高めるために、競合他社との差別化を図った製品・サービスの提供、コストリーダーシップの実現、ニッチ市場への参入・拡大などの競争戦略を立案する。立案した競争戦略に基づき、ITストラテジストは、業種ごとの事業特性を踏まえて、ITを活用した事業戦略を策定し、経営トップ、事業責任者に対して提案する。競争戦略を実現するための事業戦略の例を示す。

- ・他社との差別化を図るために、店舗の販売責任者に、店内での売行き、顧客の動きをリアルタイムに提供して、サービス品質を向上させる。
- ・ローコストオペレーションのために、拠点間、企業間で情報を共有して連携し、バリューチェーンの再構築を行う。
- ・ニッチ市場での地位を確立するために、インターネット、モバイル機器などを活用した新しいサービスを提供する。

事業戦略の策定においては、その合理性、実現可能性などの観点から様々な検討を行う必要があり、ITストラテジストには、例えば、次のような分析が求められる。

- ・先進のITを活用した事例の詳細な調査・分析
- ・大幅な業務効率向上や他社との差別化が、ITの活用によって可能な業務プロセスの明確化と課題分析
- ・活用するITの機能・性能・信頼性などについての要求レベルの分析

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが携わったITを活用した事業戦略の策定において、前提となった競争戦略について、事業特性とともに、800字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた競争戦略に基づき、どのような検討を行い、どのような事業戦略を策定したか。活用したITを明確にして、800字以上1,600字以内で具体的に述べよ。

設問ウ 設問イで述べた事業戦略を経営トップ、事業責任者に対してどのように提案し、どう評価されたか。更に改善する余地があると考えている事項を含めて、600字以上1,200字以内で具体的に述べよ。

問2 事業継続計画の策定について

東日本大震災をはじめ、国内外で発生した災害・事故では、事業継続計画の重要性を再認識させられた。また、既に事業継続計画を策定していても、災害・事故の直接・間接の影響を受けて、計画の見直しを余儀なくされた企業・組織も多い。

IT ストラテジストは、全体システム化計画の策定の中で、事業についての社会的責任、事業活動の特性、事業を支える情報システムの利用実態などを的確に捉え、事業部門と共同で事業継続計画を策定しなければならない。事業継続計画には、基本方針、想定リスク、事業継続対象の範囲、目標復旧期間、実行体制などの項目が盛り込まれる。事業継続計画の策定においては、例えば、次のような点に着目して検討する必要がある。

- ・ 情報システムのハードウェア、ソフトウェア、データ、ネットワーク、ファシリティなどの管理実態を把握した上で、そこに存在する問題点を明確にする。
- ・ 明確化された問題点に対応するための事前対策を整理し、初期コストと運用費用を見積もり、対策のための投資の是非について、事業部門と協議する。必要に応じて、情報システムに関する基本的な考え方、構成の変更など、抜本的な対策についても検討する。
- ・ 事業部門、情報システム部門だけでなく、人事、総務などの間接部門を含めた全社的な人的リソース・スキルを把握し、災害・事故発生時の事後対策実行体制を確立するためのアクションプランを作成する。

事業継続計画の策定では、計画の実効性を高めることも重要である。そのために、情報システムの変更などに伴う計画内容の定期的な見直し、関連外部機関との相互支援体制の準備、計画に基づく教育・訓練の実施などについても、あらかじめ検討しておく必要がある。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが携わった事業継続計画の策定において捉えた、事業についての社会的責任、事業活動の特性、事業を支える情報システムの利用実態の概要を、800 字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた事業についての社会的責任、事業活動の特性、事業を支える情報システムの利用実態について、どのような点に着目して事業継続計画を検討し、策定したか。策定した事業継続計画の概要とともに、800 字以上 1,600 字以内で具体的に述べよ。

設問ウ 設問イで述べた事業継続計画の実効性を高めるために、工夫した点は何か。更に改善する余地があると考えている項目を含めて、600 字以上 1,200 字以内で具体的に述べよ。

問3 技術動向の分析に基づいた組込みシステムの企画について

組込みシステムの IT ストラテジストには、新たな組込みシステムの企画・開発計画、又は既存の組込みシステムの高機能化・多機能化のための企画・開発計画を策定し、推進することが求められている。付加価値及び競争力をもった組込みシステムの企画・開発をするためには、関連する技術動向の分析が重要であり、組込みシステムの IT ストラテジストには、的確で高い分析能力が求められる。

組込みシステムに関連する技術は、通信、情報、アーキテクチャ、ユーザインタフェース、ストレージ、半導体、計測、制御、プラットフォームなど多岐にわたっている。これらの技術動向の分析によって、開発対象の組込みシステムの付加価値及び競争力を高められる有用な技術を見極め、導入の適否を判断する。このとき、市場参入時期、開発スケジュール、開発コスト、検証容易性、保守容易性、製品の安全性、知的財産、国際標準、法令などについても考慮する必要がある。

例えば、無線通信と制御 LSI の技術動向の分析結果から、開発が困難と考えていた省電力かつ低価格な組込みシステムの実現が可能になる場合もある。また、半年後に制定される見込みの国際標準にいち早く対応して開発すれば、市場競争力を高められる可能性もある。さらに、自社にない技術を外部から導入することによって、開発費を低減でき、開発期間短縮も期待できる。ただし、外部から技術を導入するときは、知的財産など、考慮すべき点が多い。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが技術動向の分析に基づいて企画した組込みシステムの性能、機能などの概要と、企画の背景及び目的について、800 字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた組込みシステムの企画に際して、どのような技術動向の分析を行ったか。また、分析の結果によって、付加価値及び競争力を高めるために取捨選択した技術は何か、800 字以上 1,600 字以内で具体的に述べよ。

設問ウ 設問イで述べた技術動向の分析及び技術の取捨選択は、適切であったか。また、市場からはどのように評価されたか。更に改善する余地があると考えている事項も含め、600 字以上 1,200 字以内で具体的に述べよ。

〔 メ モ 用 紙 〕

〔 メ モ 用 紙 〕

6. 解答に当たっては、次の指示に従ってください。指示に従わない場合は、評価を下げる場合があります。

(1) 問題文の趣旨に沿って解答してください。

(2) 解答欄は、“論述の対象とする構想、計画、システムなどの概要”（問1又は問2を選択した場合に記入），“論述の対象とする製品又はシステムの概要”（問3を選択した場合に記入）と“本文”に分かれています。“論述の対象とする構想、計画、システムなどの概要”，“論述の対象とする製品又はシステムの概要”は、2ページの記入方法に従って、全項目について記入してください。

(3) “本文”は、設問ごとに次の解答字数に従って、それぞれ指定された解答欄に記述してください。

・設問ア：800字以内

・設問イ：800字以上 1,600字以内

・設問ウ：600字以上 1,200字以内

(4) 解答は、丁寧な字ではっきりと書いてください。

7. 退室可能時間に途中で退室する場合には、手を挙げて監督員に合図し、答案用紙が回収されてから静かに退室してください。

退室可能時間	15:10 ～ 16:20
--------	---------------

8. 問題に関する質問にはお答えできません。文意どおり解釈してください。

9. 問題冊子の余白などは、適宜利用して構いません。

10. 試験時間中、机の上に置けるものは、次のものに限ります。

なお、会場での貸出しは行っていません。

受験票、黒鉛筆及びシャープペンシル（B 又は HB）、鉛筆削り、消しゴム、定規、時計（アラームなど時計以外の機能は使用不可）、ハンカチ、ポケットティッシュ、目薬
これら以外は机の上に置けません。使用もできません。

11. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ることができます。

12. 答案用紙は、いかなる場合でも提出してください。回収時に提出しない場合は、採点されません。

13. 試験時間中にトイレへ行きたくなったり、気分が悪くなったりした場合は、手を挙げて監督員に合図してください。

試験問題に記載されている会社名又は製品名は、それぞれ各社の商標又は登録商標です。

なお、試験問題では、™ 及び ® を明記していません。

©2012 独立行政法人情報処理推進機構